

やしま

広報 矢島

9月

平成 12 年 第 533 号

編集・発行 / 矢島町企画商工観光課 毎月 1 日発行
秋田県山形郡矢島町矢島町20 Z0184-55-4962
印刷 / 高濱印刷所
Eメール yashima@town.yashima.akita.jp
ホームページ http://www.town.yashima.akita.jp



祝 成 人

新たなるスタートライン

平成12年度 矢島町成人式

8月15日、日新館において平成12年度矢島町成人式が挙行されました。

今年度の成人式対象者は昭和55年4月2日から昭和56年4月1日までに生まれた78名(男性35名、女性43名)の方々。

会場では受付を済ませた成人者が、久しぶりに再会した友人と楽しく話を弾ませておりました。

式典では佐藤町長より「まもなく皆さんが主役となる二十一世紀を迎えます。それぞれの立場の中で自らを大切に、誇りと責任をもって社会の前進に役立つような悔いのない人生を送っていただきたい」との式辞に、成人者を代表し、東海林祐輔さん(舘町)が「成人として私達が今ここにあるのも、豊かな自然にはぐくまれてきた矢島の風土、そして、これまで私達を育ててくださった両親、家族、恩師の方々のおかげです。このような素晴らしい故郷を帰るべき場所、心のより所として生きていくことを大変嬉しく思っております。私達は、今日この日を過ぎたから成人だと言われても実感として何かが変わるわけではありませんし、精神的に急に大人になれるわけでもありません。私達が立っているのはあくまでスタートラインであり、これから成人としての自分を築いていけるかどうかは各自がそれぞれ日々の中で社会に生きる一人として何を思い、考え、感じて行動することができるのか、その積み重ねによるところが大きいと思います。

周りの人と生かし、生かされながら前を向いて進んで行きます。」と答辞を述べておりました。



意見発表

「成人に必要なこと」 佐藤 広和 (上新荘)

私たちが生まれてから、20年が過ぎました。みなさんにとって、この20年でどのくらいのことを学習することができましたか。中卒、高卒、大学卒と、いろいろな道があると思います。しかし、学生生活の最後にいきつくのは、就職です。ここ何年かは、就職難で、みなさんも苦労していることと思います。あと何年あると考えることよりもまず、もうこれしかないと自分を追い込むくらいの気持ちが必要だと思えます。そこから、道は開けると思えます。

そして、高校卒業後、進学や就職等いろいろ選択した人がいると思いますが、ここ最近、矢島に残る人が少ないと思えます。私は今、進学していますが卒業後は是非、矢島に戻って来たいと思っています。さらに、嫁は必ずとるつもりです。

この美しい矢島での成人式はとてもうれしく光栄なことだと思えます。そして中学時代の恩師にこの成長した姿と、晴れの舞台をみて頂くことが今後の成長への糧となることと思えます。自分が前に進むために大切なものはたくさんあると思えます。家族、友人、恋人など、どれか一つは必ずみなさんにあてはまると思えます。そして自分の為に周囲の人が頑張ってくれていることも忘れないください。中学校卒業以来進路の関係もあって、バラバラになってしまいましたが、こうして見ると、ほとんどの人が外見上はあまり変わっていないように思いますが、内面的に成長した人はたくさんいると思えます。これからの自分の将来を考えて、突き進んでくれることを望みます。そして、今自分がやりたい事をしっかり見極め、悔いの残らない人生をこれから歩んでいってください。10年、20年たった後もみんなと笑って会話できることを思いながら発表を終わりたいと思えます。



「成人」 三浦陽子(小坂)

いつの間にか時は過ぎ、今年、西暦2000年に成人式を迎える事になりました。

小学校の卒業式当日、友達みんなでその時の気持ちを紙に書き、ビンにつめ、校庭に埋めました。

「このビンを成人式の日に掘り起こそうね。」と言って、宝の地図を書いてから8年が経ちました。あつという間です。『成人』というお題を頂き、何を書こうか迷いましたが、小6の時に書いた様に、今の気持ちを素直に書こうと思います。

私は高校を卒業し、東京の会社に就職しました。主に、雑誌、ROM、ネット系のデザイン、開発から製造に関わる会社です。私が携わっているのは雑誌媒体で、材料となる文章、写真を預かり、1Pごと形にした後、1冊の本になるまでの進行をします。入社式で「時代は3ヶ月で変化する。」と言われました。今はその言葉を体感しています。いくら覚えていても知識が足りなく、学校時代にはないくらい勉強をしています。今の姿を母が見たら、感激の涙を浮かべるかも、と考える事もあります。会社は、人と人が集まって成り立っているもので、気持ち良く仕事をする為には、心が通じてなければいけません。会社と言わず、社会全般に言える事ですが、人が会話をすることはとても大事な事で、コミュニケーションをとらないと、相手が何を考え何を思っているのか見えてきません。

むしろ誤解しているかもしれません。

成人という言葉の辞書で引くと、『20歳以上の者、又は心身の発育を終え一人前となった者』とあります。確かに成人の日を迎えた私達は、世間から見ると大人の仲間入りをした事になります。ですが、大人や一人前という言葉にこだわる必要はなく、これから先それぞれが目標を持って努力していく事により「一人前」=「本当の意味での成人」を迎える事が出来るのではないのでしょうか。私が社会人二年目で、少し変化があった様に、皆今までの人生を振り返ると日々成長してきているはずで、大人の仲間入りをした以上、自分の行動には責任を持つ事だけは忘れず、これからも日々成長し続けられる様お互い頑張りましょう。

意見発表終了後には、中学時代の恩師でもある中央教育事務所由利出張所指導主事の安藤純先生の記念講話があり「21世紀を担う新成人のみなさんへ」と題して、安藤先生の青春時代のお話や、成人者たちの中学時代の懐かしい話をして下さいました。

成人者の皆さんが矢島で生まれ育ったことに誇りを持ち、これからの人生を歩むことを願っています。

少年野球教室

8月20日、多目的運動広場にて今年で5回目を迎える「少年野球教室」が開催されました。

この教室では矢島スポ少・中学校をはじめ、烏海町、由利町の少年たちが元プロ野球選手から守備やピッチング、バッティングそして野球に対しての心構え等についてやさしく、わかりやすい指導をしてもらいました。

今回で3度目の村田兆治さんは「のどかで風光明媚な矢島町。町のすばらしさ、空気、そして人々の温かさをとても感じる所。そんな中で育っている子どもたちのたくましさも身近に感じる。年々高度な指導を心掛けているが、やはり目標を明確に持って真剣にやるのが上手になることで一番大切なこと。この教室で指導を受けた子どもたちから甲子園出場、プロ野球選手が育ってほしい。」との言葉をいただきました。

なお、野球教室の様子は矢島町のホームページ(インターネット)でもご覧になれます。

ホームページアドレス

<http://www.town.yashima.akita.jp>



ピッチング指導 村田兆治さん



バッティング指導 田野倉利男さん



「矢島の自然を満喫」
矢島子ども長期自然体験村

7月30日～8月12日（13泊14日）

7月30日から8月12日まで、文部省の委嘱事業「子ども長期自然体験村」が開催されました。秋田市、神奈川県などの小中学生21名が参加、縄ない・鳥海登山・川下りなど今までは体験することが難しかったことなど、自然・生活体験を楽しみました。昨年は実行委員・今年はコーディネーターを努めていただきました佐藤角栄さんに、レポートを書いていただきました。

思い出がいっぱい

佐藤 角栄

思い出がいっぱいで何から書けば良いか迷っています。
「フー」

6月初めより実行委員会が行われました。

7月30日から8月12日までのプログラム作りでした。

昨年来て頂いた平塚つとむさん（町作りプランナー）が体調不良のため今年は僕が代わりにすることになりました。

7月30日に開村式を行い、実質二日目からの活動でした。

ブナ林での自然観察、森林浴、牧草の収穫作業の見学、土田家での縄ない、わらじ作り、座禅、肝試し、川遊び、水中生物の観察、バーベキュー、イカダ下り、海水浴、農作業体験、鳥海登山、記念クラフト、アイスクリーム作り、ジャージー牛の搾乳体験と、色々なプログラムを消化していきました。

8月12日の開村式にて全日程を終了しました。

子供たちとの出会いは、自分自身無くした何かを思い出させてくれたように思います。

楽しかったこと苦しかったことが、今後役立つときが来ると思います。

そして、子供たちが月日が経って「やしま自然体験村」でのことが活かされればと思います。

「僕と出会ったことが、プラスとなればいいなあ。」

来年もやしま子ども自然体験村に参加できることを思ってこのへんで。

あっと、忘れるところでした。

参加者、実行委員、指導等協力者、協力団体の皆様のおかげで成功できたと思います。

ありがとうございました。



小番勲さん（中山）に防衛庁長官表彰

昭和42年から現在まで、35年間にわたり自衛官及び予備自衛官として活躍された小番勲さん（中山）が、このほど防衛庁長官表彰を受賞されました。

長年にわたる自衛官活動が評価されたもので、今後も予備自衛官としての職務を継続され、後輩の指導にあたられます。

益々のご活躍をご期待申し上げます。

矢島小学校と 高松市立四番丁小学校 の交流会



昨年町制施行百十周年記念式典で、友好都市協定を締結した高松市の、市立四番丁小学校と矢島小学校はEメールやテレビ会議等で友好交流を進めていました。

矢島小学校の児童代表8名（引率木内校長他2名）が、高松市を訪れ交流を深めました。

8月1日空路関西空港へ、新幹線で瀬戸大橋を渡り高松市へ、最初に高松市長を表敬訪問、市長より歓迎の挨拶をいただきました。

2日はいよいよ交流会です。四番丁小学校図書室で、6年生ら約50人の歓迎を受けました。テレビ会議で見慣れた顔もあり、最初から和やかな雰囲気の中、両校児童代表が挨拶その後四番丁小学校の代表が高松市の栗林公園や名所等を紹介、続いて矢島小学校の児童が交代で鳥海山や秋田の名産品等を紹介しました。自分たちが鳥海山から採った雪を宅配便で送りプレゼント。四番丁小学校の児童たちは、真夏に見る雪に触れ大はしゃぎでした。その後学校内の案内を受け、ホテルの飼育場所や保多織（高松市名産）の実演等を見学しました。

全員でゲームを楽しんだ後両校児童代表のお礼の挨拶、互いにプレゼントを交換し、先生、児童の見送りを受け四番丁小学校を後にしました。

源平合戦古戦場の屋島、平家物語歴史館、生駒家初代「親正公」の築いた高松城跡の玉藻公園を散策しました。玉藻虫園では、特別に重要文化財の「良櫓うしとら」に上らせてもらいました。

3日は鬼ヶ島（女木島）の洞窟探検、文化センター、歴史資料館、菊池寛記念館を見学しました。帰りに「親正公」の菩提寺「弘憲寺」に寄り長尾住職の案内で非常に大きい墓石に合掌。4日はいよいよ最終日、朝に栗林公園を散策、その後うどん打ち体験をしました。最初に説明を受けいよいよ挑戦出来あがったうどんは、太さ厚さがまちまちでしたが、試食での温かい釜上げうどん、次に冷たいうどんを食べました。非常においしいうどんができました。

高松から空路仙台空港へ役場のバスで日新館へ到着しました日新館では父兄や関係者の出迎えを受け無事全日程を終了しました。

今後も、交互訪問をし、長く交流を続けたいものです。



鳥海山清掃登山(8月27日)

登山家で医学博士の今井通子さんを迎え遊登山教室を合わせ、清掃登山が実施されました。

早朝の葎川ヒュッテは、すでに秋の気配がただよい頂上もいつもより近く感じられる好天。

参加者60名はそれぞれのペースで山頂を目指し、昼過ぎには全員頂上に到達しました。頂上をきわめた参加者は、満足感にひたりながら、過ぎ行く夏山の一時を満喫しておりました。





第14回鳥海高原サイクルロードレース大会 (8月5・6日)

今大会からチャンピオン・ミドル・ビギナーの3クラスは年齢制限を設けず、自分の力に合わせてのトライアル。484名の選手が出場しました。

優勝は村山利男さん(新潟県)でタイムトライアル11分4秒、ロードレース1時間9分52秒。

5年連続で矢島カップを手にしました。

矢島町の文化財紹介(4)



種別 町有形文化財(工芸)

名称 「刀」

所有者 七日町 宮崎國重氏

この刀は、江戸時代、矢島藩士土田善輝氏が刀匠宮崎國重氏に依頼し出来上がったものである。長さ七八・三センチメートル、反り一・八センチメートル、元幅三・一センチメートル、先幅二・四センチメートルで幕末動乱の緊迫した世相を背景とした刀姿をしていて、更に刀樋を施して重さを調整するなど添名にある依頼者の細心の心構えが察知され、確かな伝来の判明と、刀の出来のよさと相俟って國重刀中の優れた一口である。

尚、依頼者土田善輝氏は、郷土史家土田誠一氏の父親で、元警視總監土田国保氏の祖父である。

おしらせ・募集

・・・駅を中心とした町づくりをみんなで考えませんか・・・

駅の果たす役割はただお客さんを通過させるだけでなく、私たちの生活の中で様々な場面に登場し、不可欠なものとして今日までその存在を示しております。

駅はまた、来訪者を迎える町の玄関口の役目を果たし、町の第一印象を伝える重要な空間でもあります。

人々の行動の起点となったり、伝統的なお祭りの拠点となったり、さらには様々な情報の発信ポイントだったり多岐にわたる役割は、今も昔も変わりません。

古くなったものは取り壊され新しいものが登場するのは世の常ですが、町の顔としての位置づけは変わりません。

町では駅を中心とした町の歴史、町並み、鉄道、産業、交流などを専門家のアドバイスを得ながら学習し、50年先の或いは100年先の青写真をみんなで描く「駅前教室」を開きます。

興味のある方、教室をのぞいてみたい方は、是非お申し込み下さい。

・申し込み先

矢島町企画商工観光課 (55-4952)